平成 25 年 5 月 23 日

脆弱性評価結果概要を拝見して

浅野　耕太

前回の懇談会の意見を踏まえ、コラム AB をつくるというアイディアによって、施策の補完性（あるいはそのなさ）が見えやすくなり、ある意味、立体化されたことは高く評価できると思います。その上で 2 点コメント申し上げます。

１．　本懇談会においてハード対策とソフト対策の連携による「シナジー効果」は当初から重要視されてきたと思いますが、概要において全体的にソフト対策が少なめであることが気になります。とりわけ、抜けているのが「教育」ではないかと思います。ハザード発生時の地域の防災力や減災力は日常の教育あるいは啓蒙活動によって大きく高めうるものと思います。あるいは復旧支援に関してもボランティアの知識や経験の有無（ボランティア人材の質）は大きな違いを生んでおり、実践的なボランティア教育が大きな可能性を有していると思います。事象の想定すら困難な「不確実性」に対して、現場で柔軟に対応する力を備えているのは人間のみです。その人間の可能性を防災・減災・復興支援の分野で一層大きく発揮させうる様々な教育メニューを事前に考えておくことは極めて重要なことではないでしょうか。

２．　さらに、ハザード対応力を備えた多様な人間に地域で活躍してもらうに、は日常からそれなりの準備が必要です。個人が所属する地域コミュニティの連携を強化するソフト対策、あるいは地域コミュニティ間の連携を促進させるソフト対策も考えておく必要があるのではないでしょうか。